



## 1 臨時総会及び理事会の開催

平成 17 年 11 月 29 日

平成 17 年度第 5 回理事会（書面）

- ・（財）産業廃棄物処理事業振興財団 専務理事 浜田康敬氏の特別会員としての入会承認について
- ・ 同 浜田康敬氏の特別会員理事への推薦について
- ・ 産業廃棄物研究懇談会規程の承認について

平成 17 年 12 月 15 日 臨時総会（書面）

- ・ 浜田康敬氏の特別会員理事選任について

平成 18 年 1 月 16 日

平成 17 年度第 6 回理事会（書面）

- ・ 正会員理事の田中嘉夫氏が市原成典氏に交代することの承認について

## 2 委員の交代

◇会員会社内の人事異動に伴う委員の交代

### ・ 企画運営委員会

新委員 丸山 克治（住友重機械工業㈱）

旧委員 坂本 振東（住友重機械工業㈱）

### ・ 水処理施設分科会

新委員 阿部 吉郎

（JFE エンジニアリング㈱）

旧委員 臼田 信一

（JFE エンジニアリング㈱）

新委員 丸山 克治（住友重機械工業㈱）

旧委員 坂本 振東（住友重機械工業㈱）

### ・ 破碎リサイクル施設分科会

新委員 井上 耕一（住友金属工業㈱）

旧委員 歌藤 寧久（住友金属工業㈱）

新委員 細井 浩（住友重機械工業㈱）

旧委員 高橋 憲二（住友重機械工業㈱）

### ・ 産業廃棄物研究懇談会

新委員 井上 耕一（住友金属工業㈱）

旧委員 川上 政浩（住友金属工業㈱）

## 3 自民党へ税制改正等を要望

◇工業会は自由民主党政務調査会及び税制調査会宛に 9 月 27 日付で、平成 18 年度の税制改正に対する要望書を提出した。要望事項の概要は次のとおりである。

### I 国税関係

1. 再商品化設備等に係る特別償却制度の適用期限延長及び建設汚泥再生処理装置についての特別措置の拡充

（所得税・法人税）

2. 産業廃棄物処理用設備（PCB 汚染物等処理用装置）に係る特別償還措置の適用期限延長及びアスベスト廃棄物処理施設についての特例措置の拡充

（所得税・法人税）

3. 埋立終了後の最終処分場の維持管理費用の積立金を損金又は必要経費に算入する制度の適用期限の延長

（所得税・法人税）

### II 地方税

1. 廃棄物再生処理用設備に係る固定資産税の課税標準の特別措置の適用期限延長

（固定資産税）

2. 広域処理に係る環境大臣の認定を受けた者の事業に供する施設等に係る課税標準の特例措置延長

（事業所税）

3. 産業廃棄物処理特定施設に供する土地等に係る特別土地保有税及び事業所税の非課税措置の適用期限延長

(特別土地保有税)

4. 廃棄物処理施設に係る固定資産税の課税標準の特例措置の適用期限の延長及びアスベスト廃棄物の処理施設について特例措置の拡充 (固定資産税)

◇10月26日、自由民主党本部で行われた環境部会・環境団体委員会合同会議において、工業会は井上事務局長から上記税制改正要望及び以下の平成18年度予算についての要望を行った。

(平成18年度の予算については、平成17年度に創設された「循環型社会形成推進交付金」制度の存続と更なる拡充について要望する。)

【参考】自由民主党は、12月15日に、新聞等マスコミが報ずる、実質増税2兆円超の財政再建型平成18年度税制改正大綱を公表した。  
<http://www.jimin.jp/jimin/seisaku/2005/seisaku-018.html>

#### 4 温室効果ガス政省令に工業会データ採用

環境省は11月22日付で温室効果ガス排出の算定・報告・公表の実施のための政省令の整備(特定排出者・排出量算定関係)についての意見募集を行った。

平成17年6月に公布された「地球温暖化対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」(平成17年法律第61号)においては、温室効果ガス排出量の算定・報告・公表制度の導入に当たって、温室効果ガス排出量の算定方法、報告事項等の制度細目について政省令で定めることとしている。

廃棄物処理等のエネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス算定排出量を報告しなければならない特定排出者として、温室効果ガスの合計が二酸化炭素換算で3,000トン以上であるこ

と及び常時使用する従業員数が21人以上であることが定められる。

また、し尿処理施設の排出係数のうち高負荷脱窒素処理及び膜分離処理方式の排出係数は、(独)国立環境研究所山田主任研究員と当工業会が行った調査によるデータに基づき改正が行われる。

以上は平成18年4月1日から施行される予定である。

#### 5 温暖化対策ガイドブック2005を発刊

工業会の前技術委員長の三野禎男氏を委員長とする委員会が編集した「廃棄物処理における温暖化対策ガイドブック2005」は9月22日に発刊、工業会事務局から環境省、都道府県及び政令都市の一廃・産廃担当課、廃棄物関係団体、学識者及び会員各社等に送付した。

本ガイドブックは、既刊のごみ処理施設ガイドブック2001、水処理施設ガイドブック2003、産業廃棄物処理施設ガイドブック2004につぐもので、本年2月に京都議定書が発効したのを機に、会員各社から廃棄物処理事業者等に、廃棄物処理と温暖化対策についての技術提案としてまとめたものである。

また、京都議定書をはじめ、関連各種法規、ガイドライン等を収録し、地球温暖化について勉強するときの参考書としても役立つように編集されている。

本ガイドブックの資料編を除く主要部分は、他のガイドブックと同様に工業会のホームページからダウンロード可能である。

#### 6 アスベスト検討委員会等への協力

環境省は検討委員会を設けて、大気環境や廃棄物に関連するアスベスト問題の対応策を検討するため各種の検討会を設置した。廃棄物処理に関する検討会のうち、日環センターが事務局のアスベスト含有廃棄物の適正処理に関する検

討会（委員長：京都大学工学部酒井伸一教授）はアスベスト廃棄物（飛散性、非飛散性、家庭系）の適切な処理法を、廃棄物研究財団及び全都清が事務局の廃棄物処理施設解体時等のアスベスト飛散防止対策検討委員会（委員長：京都大学工学部武田信生教授）では一般廃棄物処理施設におけるアスベスト含有製品の使用状況調査と対策マニュアルの作成を行っている。

このため、前者の検討会には、玉出技術委員長が、後者の委員会には玉出委員長の他に竹野技術副委員長が参画し、当工業会会員の資料、データ等の提供等を行っている。

## 7 アメリカ合衆国に調査団を派遣

技術委員会委員及び会員各社の技術担当者等10名からなる海外環境事情調査団は、玉出技術委員長を団長として、10月26日成田を出発し、ニューヨーク、ワシントン及びロスアンゼルス市内及びその近郊の廃棄物処理施設、関係機関、展示会等を訪問、調査を行い、11月4日帰国した。（本文参照）

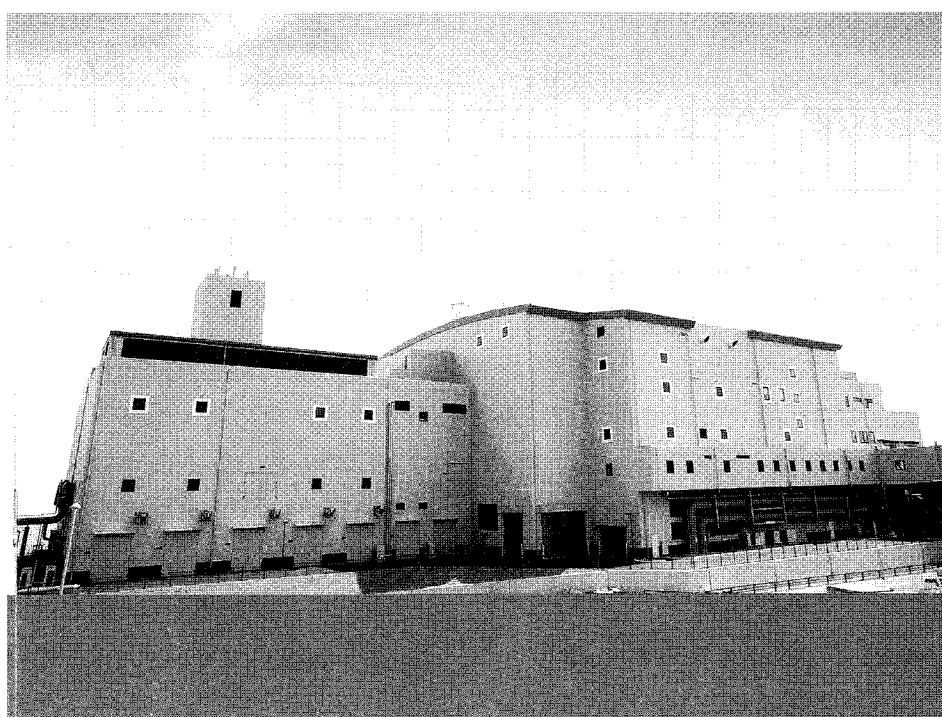
諸般の事情から、年内の実施が危ぶまれていたが、本調査団の企画を担当した河窪義男実行委員長（アタカ工業㈱）はじめ関係者の尽力により、調査団は多くの成果を得ることができた。

## 8 中国科学院第1回北京国際会議で講演

国際環境整備研究委員会（萩原 均委員長（石川島播磨重工業㈱））は、11月21日～23日北京で行われた、中国科学院工程熱物理研究所が主催する第1回廃棄物の熱処理と資源化に関する国際会議に主催者からの招待講演者として、萩原 均委員長及び長田守弘委員（新日本製鐵㈱）を派遣した。

萩原、長田両氏は「最近の日本における廃棄物処理・技術の動向」と題して、我が国におけるごみ処理の現状について報告した。

また、川崎重工業㈱尾藤俊文氏は「RDF発電技術の開発」と題し、大牟田RDF発電施設の運転状況等の報告を行った。（本文参照）



処理棟全景（右側） 受入、熱分解、溶融棟（左側） ガス精製、発電棟



県央県南広域環境組合 高田事務局長



ウエステック大賞 2005 受賞者パネル展示



前列 土井管理係長、後列 左 JFE 佐藤副部長、  
右 JFE 大杉事務所長

## 9 サーマセレクト方式のごみ処理施設を見学

平成17年度第2回施設見学会として、JFEエンジニアリング㈱が納入した長崎県諫早市の県央県南クリーンセンターのサーモセレクト方式によるごみ処理施設を11月28日に見学した。

田中 勝岡山大学大学院教授を座長にお願いし、会員会社から28名が参加した。見学会は、先ず、県央県南広域環境組合高田事務局長殿から組合の構成や事業について説明があり、土井管理係長殿、JFEエンジニアリング㈱の佐藤副部長殿、大杉事務所長殿他から施設の説明、見学の案内等をいただいた。

本施設は平成17年4月から稼動したもので、100 t/日×3炉の処理規模を有し、ごみの熱分解ガスは急冷後、酸洗浄、アルカリ洗浄、脱硫

の工程をへて改質され、改質ガスを1,500 kW×5基のガスエンジンに供給し発電する。

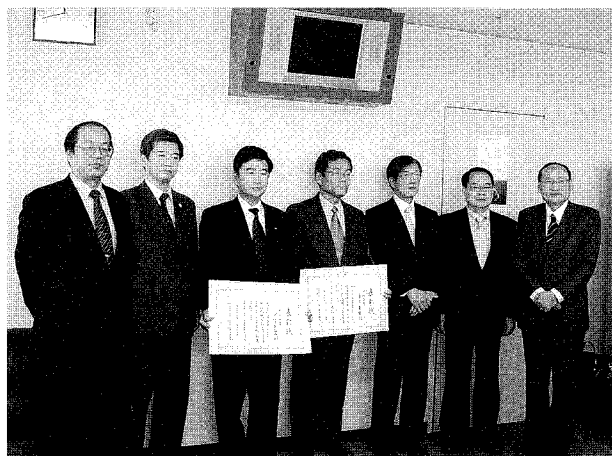
見学の御礼のあいさつの中で、田中先生から最近の廃棄物関連の話題として、①容器包装リサイクル法の改正作業、②3Rイニシアティブ、③施設の安全性の確立、④交付金を生かした施設整備についての座談会（環境施設No.102 2005）等の紹介があった。

## 10 会員の㈱タクマがウエステック大賞2005を受賞

ウエステック大賞2005審査委員会（審査委員長 藤田賢二東京大学名誉教授）は環境大臣賞2件、審査委員長特別賞1件、部門賞5件の受賞者を選考し、11月29日に表彰式を行った。工業会会員では、㈱タクマの「高温乾式バイオガス回収プラント」がプラント部門賞を受賞した。（本文参照）

なお、環境大臣賞はアラックス㈱、㈱竹中土木による「君津環境整備センター：最終処分場の先導的な取り組み」と㈱一・四・一の「環境にやさしいビルづくりを目指して」が受賞した。

今年のウエステック2005廃棄物処理・再資源化展には、低迷する廃棄物処理施設業界を反映してか、会員会社からは5社の出展にとどまった。



### 廃棄物・リサイクル対策部長室にて

左から 環境省廃棄物対策課 粕谷課長、同廃棄物・リサイクル対策部 由田部長、河窪氏、藤井氏、井上事務局長、森下副会長、木下専務理事

## 11 環境大臣表彰

工業会の推薦者に対する平成17年度環境大臣表彰授与式が12月7日に環境省廃棄物・リサイクル対策部長室で行われ、由田部長から工業会技術委員の河窪義男氏（アタカ工業㈱）及び産業廃棄物研究懇談会幹事委員の藤井重雄氏（㈱タクマ）にそれぞれ賞状と記念品が授与された。また、当工業会森下副会長から両氏に工業会からの祝い品が贈呈された。

## 12 関係団体の委員及び講師の委嘱依頼に対する協力

### 1 （財）日本環境衛生センター

- 平成17年度廃棄物処理施設技術管理者等地方ブロック別研修会講師  
河窪義男氏（アタカ工業㈱）、三村正文氏（石川島播磨重工業㈱）、竹野勝彦氏（㈱荏原製作所）、菊池昭二美氏（川崎重工業㈱）、石丸 勇氏（㈱クボタ）、松村 淳氏（栗田工業㈱）、宮田治男氏（三機工業㈱）、森 一樹氏（三井造船㈱）、山田明弘氏（三菱重工業㈱）、浅田信二氏（ユニチカ㈱）以上10名

- 平成17年度廃棄物処理施設技術管理者講習「有機性廃棄物資源化施設コース基礎・管理課程」講師

河窪義男氏（アタカ工業㈱）、松田 豊氏（石川島播磨重工業㈱）、盛下 学氏（㈱荏原製作所）、玉出善紀氏（㈱タクマ）、森 一樹氏（日立造船㈱）以上5名

- アスベスト含有廃棄物の適正処理に関する検討会委員

玉出善紀氏（㈱タクマ）

### 2 広島県一般廃棄物対策室

- ごみエネルギー利用システム検討委員会委員

玉出善紀氏（㈱タクマ）

### 3 （社）全国都市清掃会議

- 廃棄物バイオディーゼル燃料化施設性能指針案検討委員会委員

玉出善紀氏（㈱タクマ）、久森弘至氏（日立造船㈱）

### 4 （財）廃棄物研究財団

- 廃棄物処理施設解体時等のアスベスト飛散防止対策検討委員会委員

玉出善紀氏（㈱タクマ）、竹野勝彦氏（㈱荏原製作所）

### 5 （財）産業廃棄物処理振興財団

- 優良化促進活動ワーキンググループ委員  
石井淳二氏（日立造船㈱）

- 将来動向調査ワーキンググループ委員

木下正明氏（（社）日本環境衛生施設工業会）

## JEFMA No. 53 正誤表

99頁 右列上から6行目

誤 式ガス化溶融炉（全国88施設、ボイラー付）

正 式ガス化溶融炉（全国8施設、ボイラー付）

以上の通り、お詫びして訂正いたします。